愛媛医療センターニュース
# 石鎚 ーいしづちー
2015
第39号
4月1日発行
Ehime Medical Center
発行者:愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛医療センター　発行責任者:院長 岩田猛　http://www.ehime-nh.go.jp

源平谷池（げべだにいけ）と鯉のぼり（東温市上村）

## 非公務員化。当院は…

平成25年12月24日に閣議決定された「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」により、平成26年６月に「独立行政法人通則法の一部を改正する法律」が成立、公布され、平成27年４月１日の施行が決まり、国立病院機構は引き続き独立行政法人の枠組みの中で、再スタートすることとなりました。

主な特徴としては、次の３項目が掲げられています。

①中期目標管理型の独立行政法人であること。②職員の身分は非公務員ではあるが、職務上の公益性、公共性が高いところから、みなし公務員の規定が適用されること。③診療事業は全て自己収入で行っていることから、積立金については、次期の中期目標期間中に必要な施設整備等に充てることができること。

今回の決定では、国立病院機構は新たな形態の法人に移行するのではなく、引き続き独立行政法人として運営されます。また、中期目標管理型の法人として自由度が高まることになります。職員の「非公務員化」が大きな変革と言えますが、病院職員にとっては、どのような身分であれ、国民の皆様から期待されている地域医療、政策医療など医療サービスの向上を図る必要があり、診療内容や運営方針に影響はありません。

当院におきましても、これまでと同様に、信頼される地域に根ざした医療を行い、さらに発展するよう努力して参りますので、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いします。

事務部長　山本 美二

※編集部注：脱稿は３月です

# 医 究 研 学

## 第10回院内研究発表会

平成27年３月６日㈮の14時～17時20分に恒例の院内研究発表会を開催致しました。

臨床研究部の開設から毎年開いていますが、早いもので今年で10回目となりました。今年も各職場から16演題の発表がありました。例年よりやや少なめではありましたが、時間に余裕があり、より活発な討議が行われたと思います。

病棟看護４題（ストーマ管理、退院指導、身体拘束の解除、入浴介助の改善）、ポストNICU関係４題（支援体制、家族負担、療育の試み、経済的背景）、医局３題（睡眠時無呼吸外来、心臓リハビリ症例、呼吸器ウイルス検査）の他に、検査科（細菌の分離状況）、放射線科（DAT製剤検査の紹介）、RST（在宅NPPV療法の現状）、NST（褥瘡マットの使用について）から１題ずつの発表がありました。

特に、今回は新設のポストNICU関連の演題が多く、現在の問題がわかると同時に、今後の改善・発展が期待される内容でした。その他のどの演題も診療に直結する取り組みで今後の展開が期待されます。研究を継続してさらに充実させ、学会発表や論文発表につなげてほしく思います。

今回もお手伝い頂いた臨床研究部関係者に感謝致します。

臨床研究部長　松田 俊二

## 発表演題一覧

**第１群**

１、EOG稼働回数減少とコスト削減に向けての取り組み
　　～過酸化水素低温プラズマ滅菌を導入して～
２、重症心身障害児（者）の身体拘束解除に向けたチームでの取り組み
３、重症心身障害児者病棟に勤務する看護師の入浴介助におけるストレス
４、医療型短期入所を利用する患者家族の養育負担の現状

**第２群**

１、在宅療養に向けたPOST NICUの支援状況
２、Ａ病院におけるストーマ看護実践能力の現状と今後の課題
３、Ａ病院における肝硬変患者の退院指導に対する看護師の認識
４、重症心身障害児（者）の短期入所やレスパイト的入院で採算は取れるのか

**第３群**

１、体圧分散マットレス運用方法の再構築の報告
２、ポストNICUにおいて保育を実践した３症例
３、当院における微生物検査の分離状況について
　　～2014年の年間統計から～
４、脳内ドパミントランスポーターイメージング用製剤の初期使用経験

**第４群**

１、当院COPD患者における在宅NPPV療法の現状
２、睡眠時無呼吸外来の紹介
３、重症心不全に対する心臓リハビリテーションの試み
４、長期入院病棟（重症者病棟）における呼吸器感染症の病原ウイルスの検索
　　～多項目同時検出法を用いて～

# サイレントキラーをやっつけろ！

## 糖尿病退治にこの一手

近年、糖尿病の患者が年々増加していることが世界中で問題となっています。糖尿病は早期から生活改善などの治療が重要ですが、受診率の低さが目立ちます。それは病気が進行しても症状が出ない（サイレントキラー）という特徴が大きな原因です。このやっかいなサイレントキラーにはひとりで立ち向かうより仲間が必要！そこで私たち糖尿病療養指導士の出番です。

糖尿病は生活習慣病といわれるように、日頃の生活状況が治療に大きな影響を及ぼします。そのため、画一的な指導ではなく個人個人の生活に合わせた細やかな関わりが大切です。

このたび、以前から活動しているフットケア外来や透析予防管理指導に加え、在宅自己注射を行っている方や、その他の療養指導をご希望の方を対象に、糖尿病療養指導士が外来で個別指導をすることとなりました。糖尿病と上手く付き合っていくためには、何より継続した自己管理をすることが必要です。そのため、私たちが大切にしていることは、患者さんがこれまで歩んできた人生や生活習慣に関する思いにできるだけ寄り添った療養生活の支援を行うことです。患者さんからお話しを伺いながらこれまでの生活を共に振り返り、できるだけ負担なく治療が継続できるような方法を一緒に考え、より良い提案をしたいと考えています。また、主治医と相談し、必要に応じて他の専門科への紹介に対するサポートなども行います。

実施は予約制で火・木曜日、時間は相談して決めています。（１回に30分程度）

一緒に楽しく療養生活をはじめてみませんか？

外来看護師（糖尿病療養指導士）　大崎 孝子

## 糖尿病療養指導士って？

糖尿病は世界的に増加している疾患です。当院でも平成23年４月に糖尿病チームを発足し、日本糖尿病療養指導士という資格を持った者が在籍しています。

日本糖尿病療養指導士（CDEJ）とは、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を有し、医師と協力して患者さんに熟練した療養指導を行うことのできる医療従事者です。看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士のいずれかの資格を有し、現在または過去10年以内に２年以上継続して糖尿病患者の療養指導に従事した者で、この間に通算1000時間以上糖尿病患者の療養指導を行い、試験に合格した者です。

当院には看護師６名、管理栄養士２名のCDEJが在籍しています。主にフットケア外来や糖尿病教育入院、糖尿病教室や生活習慣病教室を実施しながら多職種で協力し合い、糖尿病チームとして活動しています。フットケアでは足病変の治療や予防対策の指導、教育入院では糖尿病についての知識やインスリン自己注射、自己血糖測定の技術の習得はもとより、患者さんの自己管理の動機付けをしたり、教室では様々な分野の講師の方に糖尿病に関連する講演をしていただいたり、患者さんと一緒に食事やおやつを食べて糖尿病について話し合ったりしています。

私たちは医師が指示する治療方針を正しく、適切に伝え、自己管理できるように患者さんに一番近い存在で寄り添って援助していきたいと思っていますので、気軽に声をかけていただけると幸いです。

23病棟看護師（糖尿病療養指導士）
佐々木 隆司

# 地域の輪

## 繋がる地域医療連携

## たけもと整形外科クリニック

当院は平成18年５月１日に開院した整形外科クリニックです。すでに開業、診療されていた　いのうえ小児科、生島眼科に隣接した場所に、こばやし内科クリニック、ハート レディース クリニックと同時期に開業いたしました。

無床で手術室を持たないクリニックですから、入院、手術やMRIなどの詳しい検査が必要と思われる患者さんの紹介で、愛媛医療センターの皆様には度々お世話になっています。

設計に際しては天窓や吹き抜けを多くとり、中央にインナーガーデンを作って明るく暖かみのある施設を目指しました。開院当初はすぐに枯れてしまうのではないかと心配していたインナーガーデンのベンジャミンは、温室のような環境のためか高さ３メートルを超えて今もすくすく成長しています。この木は12月にはクリスマスツリーに変身します。また、１年前からここでリスザルを２匹飼っています。（ぬいぐるみですが）

また院長は競技スポーツが好きで中学から大学までテニスを続けており、テレビでお馴染みのあの熱いおじさん（M氏）と中学の時に対戦しています。今はマウンテンバイクという競技に熱中し、若者と一緒に全国のシリーズ戦にも出場しています。ですからスポーツで頑張る人を心から応援し、親身になって診療するよう心掛けています。

真面目で誠意のある診療を心掛けていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

施 設 名：たけもと整形外科クリニック
住　　所：東温市野田２丁目100-2
電　　話：089-955-5888
受付時間：9時～12時　14時～18時
　　水曜日は午前のみ
　　土曜日は9時～14時
休　　診：日曜日　祝祭日

# 祝

## 今日から大人
## 重症心身障害児（者）病棟で成人式

平成27年１月28日㈬、院長をはじめ、看護部長、主治医の松田臨床研究部長、矢野小児科医長、管理課長、病棟師長が参列し、平成26年度 重症心身障害（療養介護）病棟の成人式を行いました。また、来賓には県立みなら特別支援学校の校長先生をはじめ、訪問教育でお世話になった先生方、重症心身障害病棟保護者会会長、患者会代表の皆様に御臨席頂き、盛大に開催することができました。

参加者全員が正装をし、緊張感漂う中、成人式が始まりました。今年度の新成人は１名ということで、新成人の方もそのご家族も開始前からとても緊張していました。みなら特別支援学校 喜安勝也校長先生から頂いた祝辞の中に「相田みつをさんの言葉より“あなたがそこにいるだけで、その場の空気が明るくなる。あなたがそこにいるだけで、みんなの心がやすらぐ。そんなあなたに私もなりたい”。」というお言葉を頂きました。

成人式を迎えた患者さまとご家族（前列中央のふたり）

保護者会 安永会長の祝辞ではご家族の方に「これからも一緒に子どもと歩んでいきましょう、保護者会みんなで支え合っていきましょう」と、激励のお言葉を頂きました。

記念品や花束を両手いっぱいに受け取っている姿や、新成人誓いの言葉をご家族がお話されたときには、ご家族と一緒に涙を流す職員もいました。式終了後、紅白幕の前で記念写真を撮る時にはみなさん緊張もほぐれ、素敵な表情で写真撮影を行うことができました。

式終了後には無事に開催することができたことにホッとするのと同時に、人生の節目である成人式を一緒に祝うことができ、とても感慨深い１日となりました。

療育指導室保育士　西田 益三

# 医心伝心

## 肺炎球菌ワクチンのおはなし

各科のドクターがそれぞれの専門分野から、病気・治療・予防等々フリーテーマで一文をしたためます。

平成26年10月より高齢者に対する肺炎球菌ワクチンの定期接種制度が始まりました。

これまでに肺炎球菌ワクチンを接種したことが無い高齢者を対象に、5で割り切れる年齢となる年度に一度だけ定期接種を受けることができます。また60歳以上で心肺腎などに重い障害を持つ方も対象になることがあります。肺炎球菌ワクチンは5年後に再接種が可能となっていますが、こちらは任意接種（自己負担）となります。

市中肺炎（病院外で発症した肺炎）のおよそ25%が肺炎球菌による肺炎と報告されています。肺炎球菌には93種の血清型があると言われており、今回定期接種されることになった23価の肺炎球菌ワクチン（ニューモバックスNP）はそのうちの23種に効果があります。この23種類の血清型は成人の重症肺炎球菌感染症の約7割を占めるという研究結果があります。米国の調査ではワクチン接種で肺炎の15～20%が予防可能と推定されており、日本の高齢者施設入所者を対象とした研究では肺炎を4割抑制したとも報告されています。

また新たに高齢者にも使用可能となった13価肺炎球菌ワクチン（プレベナー13）は定期接種には使用できません。この13種類の血清型でも成人の重症肺炎球菌感染症の約5割を占めると報告されています。13価ワクチンと23価ワクチンの併用効果は証明されていませんが、もし併用するならば「13価ワクチンを先に接種する場合は23価ワクチンより半年～4年前に接種すること、13価ワクチンを後から接種する場合は23価ワクチン接種後1年以上空けること」が日本呼吸器学会・日本感染症学会合同委員会から提言されています。

呼吸器内科　渡邉 彰

# 医療安全管理室だより

こんなことしています

## 減りました！

### 転倒・転落防止の取り組み …その後…

入院患者様の安全な環境提供の一つに、転倒転落事故防止への取り組みがあります。愛媛医療センターでは、入院時に「転んでからでは遅い、転倒防止のポイント」をお渡しして、事故防止への取り組みにご協力いただいています。それでも、転倒のリスクが高い場合は超低床ベッド、各種離床センサー、衝撃吸収マットの活用、観察がしやすいナースステーション近くの部屋に移動、ご家族の面会、ラウンド回数を増やすなど様々な対策を行っています。

当院の入院患者様は65歳以上が約8割を占め、認知症、環境変化に伴う不安、入院生活による筋力低下、治療のためベッド上安静によるADL（日常生活動作）制限など転倒のリスクが高くなっています。

このような中、昨年度から患者様・ご家族にご協力頂くと共に、全職員による取り組みの強化の結果、年間に120～150件の転倒件数が、昨年度は88件、今年度は1月末現在で65件と減少しました。このような結果が得られたのも、患者・家族参加型のチーム医療の成果だと感謝しています。

今後も、入院患者様の安全な環境、ADLの向上、早期退院へ向けて職員一同努力して参ります。引き続き、ご協力をよろしくお願い致します。

## 10's ANNIVERSARY
## 創刊10周年を迎えて

平成25年４月に病院名が愛媛病院から「愛媛医療センター」に変わったのをうけ、病院新聞の名称も第31号から「愛媛医療センターニュース　石鎚　ーいしづちー」と改めました。病院新聞第１号は、平成17年７月に「愛媛病院ニュース」の名称で発行されました。これは当病院が独立行政法人化された翌年のことです。

以来、年に４回、３ヵ月毎に発行され、10年が経過しました。その内容は当院の運営方針や行事のお知らせ、診療科やスタッフの紹介、看護学校の話題などが主なものです。近年は、近隣の医療機関や老人保健施設のご紹介や医療安全便り、四季燦餐での食の情報なども掲載し、その内容は多岐にわたっています。

この新聞は関係医療機関に送付していますが、病院玄関の外来にも設置し、患者さんやそのご家族に自由に読んでいただけるようにしています。持ち帰っていただくことも可能です。さらに現在は当院からの情報をより知っていただけるように東温市内の各家庭に回覧していただくようになりました。

以前の号に目を通すと、当時の出来事やスタッフとの出会いや別れが思い出されます。また表紙の、四季折々の東温市内の風景写真に見入ってしまうこともあります。今後も、皆様に楽しみにしていただける新聞になるよう、編集委員を中心にスタッフ一同努力してまいります。

病院新聞編集委員長　阿部 聖裕

心地よい風と陽気に包まれ、春の訪れを感じる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。「春」といえば、「お節句」。女の子の健康と幸せを祈る行事として有名なのは、「ひなまつり（桃の節句）」ですが、男の子といえば、「端午の節句」ですね。

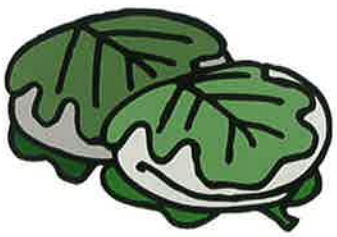
そこで、今回は、「端午の節句」、そして「柏餅」についてご紹介します。

「端午」の「端」とは、物のはし、つまり、「はじまり」という意味で、「午」は、干支や暦に出てくる午（うま）のことですので、もとは、月の端（はじめ）の午（うま）の日という意味で、５月に限ったものではありませんでした。しかし、午（ご）と五（ご）の音が同じなので、毎月５日を指すようになり、やがて（奇数の重なることをおめでたいとする考え方から）５月５日を男の子の誕生と成長を祝う節句として鎧や兜、馬や虎・若武者の人形、鯉のぼりや幟などを飾るようになったそうです。

また、「端午の節句」の頃には、「粽（ちまき）」や「柏餅」を召し上がる方も多いかと思いますが、では、数ある葉の中で、なぜ「柏の葉」が使われるようになったのでしょうか？御存じの方もいらっしゃるかと思いますが、「柏の葉」は、新芽が育つまで親葉が枯れ落ちないので、子孫繁栄を祈るめでたい木とされています。また、葉の形が神参りの時に打つ柏手に似ていること、そして、餅も神事に欠かせない縁起ものとされていたので、「餅を柏の葉で包んで供える」ことになったそうです。

そんな謂れを思いながら召し上がっていただくと、いつもと一味違った「柏餅」になるかもしれませんね。

柏餅を召しあがる際は、喉に詰まらせないようゆっくりとお召上がりください。



# 看護学校の頁　～学び舎から～

## 第十一回　卒業式

### 三月の風に…想いをのせて…

３月４日、多くの来賓・保護者・愛媛医療センター職員・在校生が見守る中、「第11回卒業式」が挙行されました。45名の学生に卒業証書が授与され、専門士の称号が与えられました。卒業証書を学校長から手渡される学生はとても晴れやかで、その表情はまぶしく、３年間の成長を感じることができました。

３年前、45名は看護師への夢と憧れを胸に入学しました。看護学について真っ白だった学生達は、その日から自分が決めた目標へ向かって走り出しました。学習に励み、技術を磨き、臨地実習に臨みました。

そこには講師、実習施設の方々そして患者様、多くの学生を育てる手、見守る目がありました。学生達はその多くの皆様の協力・支援を得ながら３年という月日をかけ、それぞれのカラーを持った専門職業人として成長することができました。一歩一歩踏みしめるように壇上に上がり、卒業証書を受け取る卒業生の姿を見て、一日一日の教育・学習の積み重ねがとても尊いこと、３年間の教育の力に改めて気づかされました。

岩田学校長が式辞の中で、看護師への道を登山に例えて「卒業式の今日は、大変だった登り道を登り、山頂からご来光を晴れやかな気持ちで眺めている状況です。しかし、登山のゴールは下山することであり、登り道よりも、下り道が本当は険しい」と話しました。

４月から卒業生は、それぞれの場所で看護師として険しい下り道に一歩踏み出すことになります。当校で得た知識・技術・絆という杖を支えに、それぞれのペースで確実にゴールに向かって歩みを進められる力を持っていると信じ、その活躍に期待しています。

教員　亀田 まゆみ

**※本校は看護師国家試験に全員合格しました！**

## ちょっと言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

寒い季節が苦手ですが、寒いからと言って家に閉じ籠もっている方がもっと苦手なので、冬は雪上を滑走して楽しんでいます。

スキーを始めたのは約三十年前ですが、当時は映画「私をスキーに連れてって」の影響も有りスキーブームで、何処のスキー場も人で溢れており、リフト待ちの長蛇の列や、食堂でカレー等を受け取っても座る席が空いてないことに辟易したことを思い出します。

十五年程前からスノーボードを始めました。滑るという感覚はスキーと似ていますが、滑る方向が前ではなく横のため、思ったように滑れないことに発奮し、それからはスノーボード一辺倒で練習しました。

滑れるようになると、その頃、幼稚園児だった子どもを誘い、皿ヶ峰の風穴辺りで玩具のボードで練習させて、少し滑れるようになるとスキー場に行きリフトデビューしました。

子どもが小学生の頃は一緒に滑りに行く機会も多かったのですが、中学になり部活を始めると行く機会が減り、高校では部活や補習等が忙しく滑りに行くことが殆どなくなりました。（少し寂しいですが子離れしないとね）

子どもとスノーボードに行く機会が減ったこともあり、十数年ぶりにスキーをしてみると、昔のイメージ通りに滑れず、いとも簡単に転ぶことに愕然とし、昔の勘を取り戻すべくスキーを再開しました。今はスノーボードとスキーの両方を滑って転んで楽しんでいます。

南国四国と言われている愛媛県ですが、県内には現在三箇所のスキー場があります。

皆さんも冬にスキーやスノーボードを楽しんでは如何でしょうか。寒くて嫌だった季節が、雪が降るのが待ち遠しい季節に変わるかもしれませんよ。

本号が出る頃には桜の季節も終わり、随分と春めいていると思いますが、冬の話題をご容赦願います。

ラッスンゴレライ

# 外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834　FAX 089-990-1858
外科外来直通電話 089-990-1835　FAX 089-990-1859

| 診療科 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 循環器内科 | | 舩田<br>泉 | 藤田<br>泉 | 岩田<br>藤田 | 岩田 | 舩田 |
| 消化器内科 | | 古田 | 山内（一） | 久保<br>廣岡 | 山内（一）糖尿病専門 | 久保 |
| 呼吸器内科 | | 阿部 | 市木<br>渡邉 | 佐藤 | 阿部<br>伊東 | 市木 |
| 神経内科 | | 小原 | 岡田 | | | 戸井 |
| 外科 | | 石丸 | | | | |
| 消化器外科 | | | 鈴木 | 森本 | 渡部（隔週） | |
| 呼吸器外科 | | | | | 澤田・末久<br>（第1・15時～）<br>佐野<br>（第4・14時30分～） | 湯汲 |
| 整形外科<br>午前のみ診療 | | 横手<br>宮本 | 曽我部 | 横手<br>曽我部 | 宮本 | 宮本（第2・4）<br>曽我部（第1・3・5） |
| 専門外来（予約制） | 心臓リハビリ | 舩田 | 泉 | 藤田 | 舩田 | 舩田 |
| | 心臓外科 | | | | 泉谷（隔週） | |
| | 糖尿病外来 | | | | | 古川（第2・4） |
| | フットケア外来 | | | | 毎週 | |
| | スキンケア外来 | | 第1・3（午前） | | | |
| | ペインクリニック | | | 山内（康）（午前） | | |
| | じん肺外来 | | | | | 西村（第1・3）（午前） |
| | アスベスト外来 | | 13時～16時 | | 13時～16時 | |
| | 息切れ外来 | 渡邉（13時30分～） | | | | |
| | SAS外来 | | | | | 渡邉（午後） |
| | 神経難病 | | | 橋本 | | |
| | 小児（神経外来） | 矢野 | | 濱田 | | 矢野 |
| | 頭痛外来 | | | | 永井（第2・4）（午前） | |

※外来受付は8時30分から12時までです。内科は13時から16時までです。
　ただし、土・日・祝祭日・年末年始（12月29日～1月3日）は休診です。
※SAS（睡眠時無呼吸症候群）

2015年4月1日現在

## 独立行政法人国立病院機構　愛媛医療センター

〒791-0281　愛媛県東温市横河原366　TEL 089-964-2411　FAX 089-964-0251
ホームページアドレス　http://www.ehime-nh.go.jp

## 当院の位置と交通

### 高速道路川内ICまでの所要時間

- ●三島川之江IC（70km）　50分
- ●高松西IC（130.9km）　1時間30分
- ●徳島IC（170.9km）　1時間50分
- ●高知IC（130.1km）　1時間30分

（川内ICから当センターまで車で5分）

### 交通機関

電　車　伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分
　　または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
バ　ス　伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
自家用車　松山市から30分　伊予市から40分　西条市から60分
　　無料駐車場完備

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊誌へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会（担当：小倉）までお寄せください。